

やさいはかんがえた

「くさむしり厭だあ……。なんであんなに草は生えてくるのお……。老人会のくさむしりなんか草取ったあとに除草剤まいてるのに、うちは無農薬だからって別に雑草無農薬栽培してもなんにも面白くもない……………」

「ん？ 実はなぜくさむしりが面白くないかという、もし面白けりゃみんなが雑草の取ってしまうだろ？ そして勢い余って作ってる野菜までむしり取ってしまうんだ。だから野菜がなくならないように、くさむしりというイベントは楽しくないようにできているんだ。それは草薙の剣が八岐大蛇から発見された時、そう設定されたという」

「あーんそんなおおうそだあつ！ だいたいやまたのおろちって名前も変だよ。八つの頭のおろちならわかるけど、八つ頭あるんなら股は七つだよおっ！ あーんあんあん、くさむしりは腰が痛くなっちゃうから厭だよ〜っ!!」

「いいか、よく聞け。だいたい雑草はむしられるために生えている。だからこそあんなに一所懸命むしつとくれむしつとくれと表現するためべんべんと伸びまくるんだぞ」

「ううう……………、またうそつくう〜。そんな弱肉強食の世界にむしられるためになんて生えてるのはいないよおっ！」

「弱肉強食なら所謂栽培作物は雑草に負けて死に絶えてしまう。それを人間が手助けして栽培作物が元気に大きくなれるようにしてあげているんだ。残念なことに現在人間は弱肉強食の頂点に位置してしまっているから、弱い栽培作物を将来食べることを目的として強い雑草から護っている」

「強食でも雑草は食べられないのね？」

「そーゆーことだ」

「じゃあなんで栽培作物ばっかが弱いのか？ 人はわざわざ弱い者から食料を得ようとなぜしてしまったの？」

「栽培作物は長い年月をかけて品種を改良され、人の食物として便利に、つまり量が多く栄養価が高く収穫がしやすく手間をかけないようにされてきた」

「くさむしりは手間じゃないのおっ！」

「農薬という手間省きを人類の英知の結晶として誕生させている」

「だから逆に農薬なくなると前以上に手間かかったりするのね」

「うん。それに、多くの植物は自衛のため自分の周りには他の植物が生えないよう、日陰をつくって光合成を邪魔したり、根から弱い毒を出したりして他の植物を枯れさせたりしてきた。自衛の理由は養分確保のためなんだが、現在人が手間をかけないようにするには狭い土地に大量に栽培しなくてはいけないし、そのほうが土地あたりの収益が上がる。さらに化学肥料という強い味方が人類の英知の結晶となって呼び出されるに至って、栽培作物の自衛能力は人にとって邪魔者以外のなに者でもなくなってしまった。故にそれをなくすべく改良され、弱い弱い植物に栽培植物はされていった」

「じゃあもともとは強かったのね？」

「いや、もともともそれほど強くはなかった。なぜなら、雑草と多くの栽培作物とではその植物構造上において根本的な違いがあるからだ」

「雑草のほうが芯がとおっている」

「ちゃう。光合成をするにあたって、そのエネルギー変換効率が雑草のほうがいいからなんだ。つまり、同じだけ日光を浴びてもそこから得るエネルギーは雑草のほうが多い」

「葉緑素が雑草のが多いんでしょ？」

「その葉緑素の中が違うんだ。一般的に栽培作物はC3回路で、雑草はC4回路だ」

「ビタミンBじゃなかったっけ。そーゆー色々あるのって……………」

「これはビタミンの話じゃない。光合成はなにをしている？」

「光を合成している……………あれ？」

「二酸化炭素を酸素にする！ つまり日光のエネルギーによって二酸化炭素から炭素を取り去り、その結合エネルギーを得て植物は根などから吸い上げた窒素などの無機物質を炭水化物という高分子有機化合物にする。その一回のサイクルの間に、栽培作物は炭素を三つだけだけど、雑草は炭素を四つ切り離すことができる仕組みになっている」

「だったら雑草のがたくさん栄養取れるってことでしょ？ なのになんで人間はそれを栽培作物にしようとはしなかったのよお？」

「どうもろこしはC4だ」

「他は……………」

「他は……………、なんぞあったかいな？」

「そら見ろっ！ なんで人はそーゆー面倒なのをわざわざ味方にしたのっ！」

「別に味方にした訳じゃないけど……………」

「雑草は敵だいつ!!」

「……………はいはい、まず、植物は自らの種を繁栄させることを目的にしている。動物だって同じことだ。一般的に同種の者は殺そうとはしない。つまり人間は動物という扱いをされることを避けるため、つまりつまりすべての霊長として下の者とは違うことを知らしめすため、人間を殺しているんだが……………」

「トップは辛いよね」

「そう。そこでもともと弱い植物は、考えたんだ。自らの種を繁栄させるもつとも早くてうまい手はなにか、と。そこで陰謀だ……………」

「あ、人に食べ物をあげるかわりに他の雑草やなんやかから護ってもらいのね？」

「うん・ ところで人に気に入られるべく、人が美味しく有益だと思ふ形に近づいていき、人に受け入れられたあとは、勝手に人に任せてしまった……………。そこが浅はかと言えば浅はかか」

「だからこんなに弱っちなっちゃったのかあ……………。あーあ、だからくさむしりしなくちゃいけないなんて……………。みんな浅はか」

「なーに、草をむしればまたそのあとからなんぼでも雑草は生えてくる。とつても奥が深いんだ」

「ううう……………。地球温暖化を防ぐため、たくさん二酸化炭素を分解する雑草を残し、野菜を抜くっ！」

「おーいつつ！ こら、待たんかいつつ!!」